

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	市民生活部	
	課名	防災交通課	
	係名	消防防災係	
	記入者		電話(内線) 281

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	消防団施設整備事業(消防ポンプ自動車購入)	(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ		(6) 事業主体		市	
① 事業の区分	主要事業	(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)
② 施策コード	24402 (総合計画掲載ページ 77 ページ)	会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	2 安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)	財源区分	市単独		
基本施策	4 安全に暮らせる安心なまちづくり(防災・防犯・安全)	予算科目	款 9 項 1 目 3		
施策	消防・救急体制の強化	予算書上の 事業名称	消防ポンプ自動車購入事業費 (予算書 ページ に掲載)		
施策内容	消防団施設の整備・更新	(8) 事務分類		自治事務	
(5) 事業期間	開始 平成 26 年 4 月から 終了 年 月まで (カ年)	根拠法令	消防組織法		

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	結城市内の家屋等防火対象物	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)	消防団へ配備している車両(ポンプ自動車10車両, 指令車, 軽広報車)を順次更新することにより, 地域消防力の強化と火災その他の災害防御体制の強化を図る
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	老朽化した消防車両(車齢15年を超過するもの)の更新 H26 第2分団(H7年式 4t) H28 第5分団(H12年式 2t) H29 第9分団(H12年式 2t) H30 第6分団(H14年式 2t)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)	点検等において, ポンプ機能の低下等が指摘されている
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	消防団員の中には, オートマ限定の運転免許取得者が出てきており, それに対応するべく消防車両のオートマ化が必要となっている		

3. 事業コスト

行政評価 実施計画	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)
	26 年度	27 年度	28 年度 29 年度 30 年度
事業内容	26 年度	27 年度	28 年度 29 年度 30 年度
(1) 事務事業費	消防ポンプ自動車(第2分団)	16,145	
	消防ポンプ自動車(第5分団)		
	消防ポンプ自動車(第9分団)		
	消防ポンプ自動車(第6分団)		
	合計	16,145	
財源	国庫支出金 (千円)		
	県支出金 (千円)		
	地方債 (千円)	11,900	
	その他特定財源 (千円)		
	一般財源 (千円)	4,245	
	合計 (千円)	16,145	
補助・起債制度名	防災基盤整備事業		

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）		指標の名称	単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	老朽化消防車両の更新	目標値	台		1	1	1	1
		実績(見込)値		1	0			
指標名		目標値						
		実績(見込)値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	老朽化（車齢15年超）消防車両の更新台数	目標値	台		0	1	1	1
		実績(見込)値		1	0	1	1	1
		達成率		100.0 %	0.0 %			
指標名		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率	%	%				

5. 事業評価				
(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。 平成26年度更新により、大幅に耐用年数が過ぎている車両は無くなるので、平成27年度更新は見送ることとした。				
(2) 項目別評価				
評価項目・客観的評価				
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	耐用年数が大幅に過ぎている車両の更新や、各種機器の老朽化に伴う修繕が増えてきているので、更新は必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	
	手段の妥当性	A	妥当である	
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	緊急車両であり、修繕を何度も繰り返しながら使用するよりも、修繕が発生する前に更新することは、コストの削減につながる。
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	各分団車両を順次更新しているため、偏りは見られない。
有効性	成果の向上	A	上がっている	各分団の実状に合わせた車両(オートマ化)を更新することにより、防災活動における安全性が向上された。
進捗度	事業の進捗	A	順調である	大幅に耐用年数が過ぎている車両は無くなった。
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。 近年、消防団員の中にはオートマ限定免許を所有している者も見受けられることから、現状の車両では運転ができない者も出てきている。				
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？ 車両更新時に、オートマ車両等の実状にあった車両を導入していく。				

6. 事業の方向性判断		
評価主体	27年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	今年度は、更新を1年先送りしたが、消防団活動を支える消防ポンプ自動車は、緊急車両であることから、年次計画に基づき、順次更新していく。 また、更新に当たり、機能性を重視した車両の導入を図る。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。